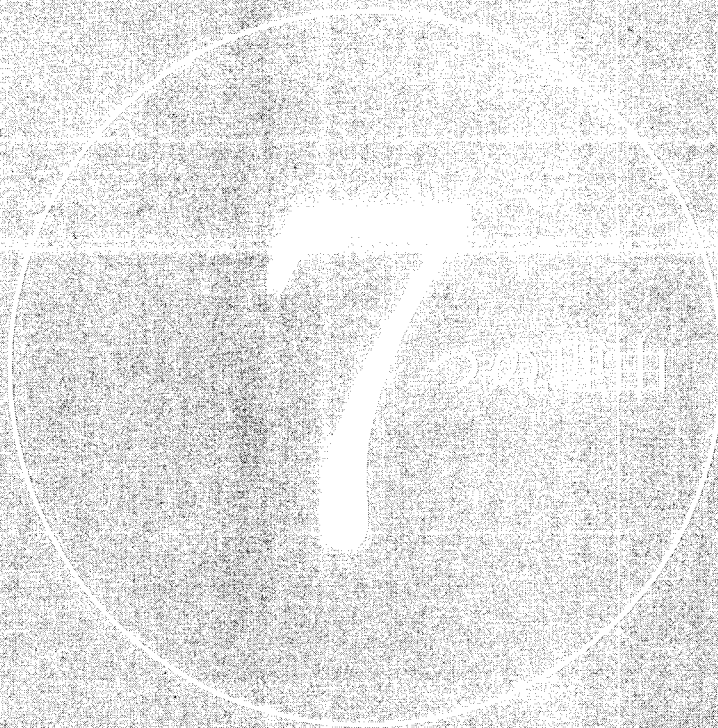


なぜ、「乳がん」・「子宮頸がん」の検診は効果的なのか



「がんになったと知るのがコワイんだけど……？」

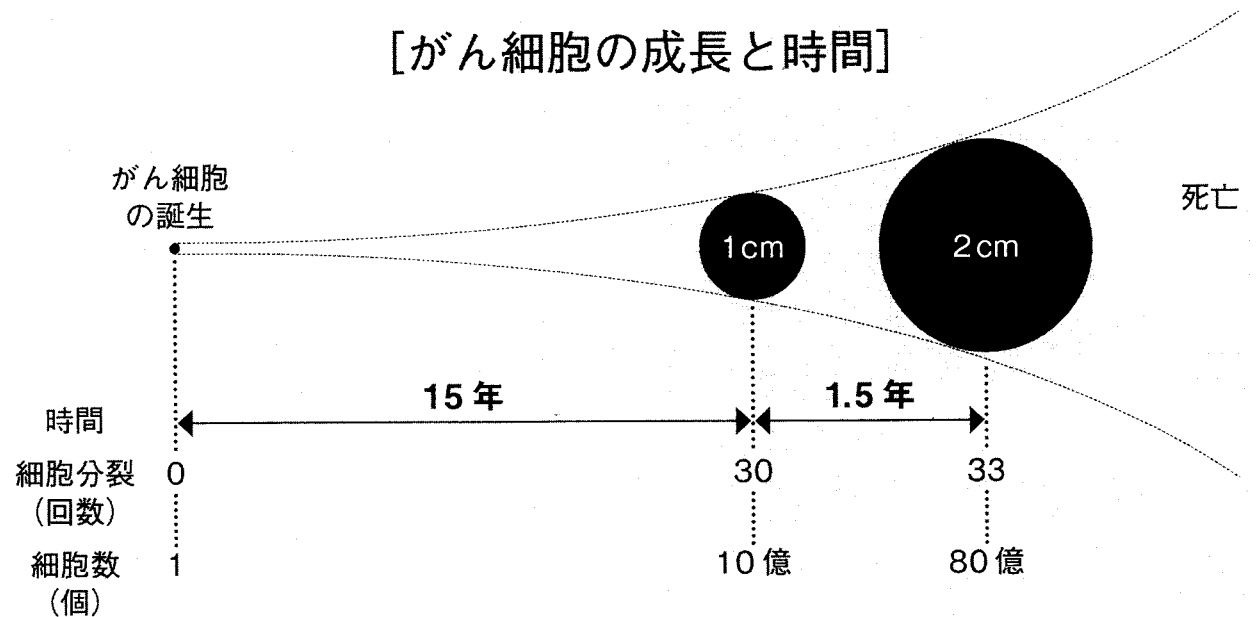
1

がんは^{ふじ}不^じ治の病ではありません。
全体で見れば、半分ちかくが治る
と考えられます。早期がんなら、
完治の可能性もぐっと高くなります。



乳がん・子宮頸がんは検診の有効性が世界各国で証明されています。がん検診を受
 けずに、がんが進行すれば、つらい症状が出てくるわけですし、^{ちゅうりつ}治癒率も減ってき
 ます。子宮頸がんを例にとると、もっとも初期の段階のがんでは8割以上が治りま
 すが、がんの進行とともに治癒率は下がります。ほんとうにコワイのは、「がんが
 進行しているのに気づいていない」状態ではないでしょうか？ 乳がんでは、たった
 1つのがん細胞が、1cmになるのに15年以上もかかります。1cmのがんが2cm
 になるには2年もかかりま
 せん*。1cm以下のがんは
 診断がむずかしいですし、
 早期の乳がんは2cm以下
 をさしますので、乳がんを
 早期に発見するには、2年
 に1度は検診を受ける必要
 があることが分かります。

[がん細胞の成長と時間]



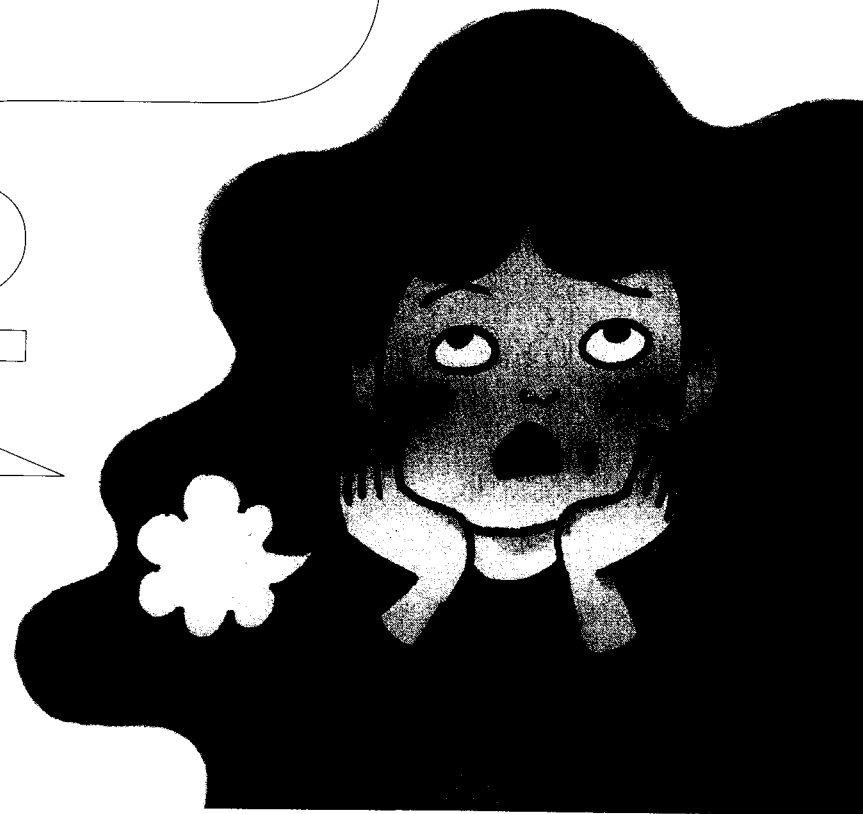
♥ ぜひ、無料がん検診をお受けください。

* <http://breast-cancer-research.com/content/10/3/R41>

「まわりも検診を受けていないから、平気……？」

日本のがん検診受診率は先進国の中で最低レベルです。米国などでは減っているがんの死亡者数*が、日本では増え、いまや年間およそ34万人（死因の3分の1）が、がんで亡くなっています。これは世界最高レベルです。

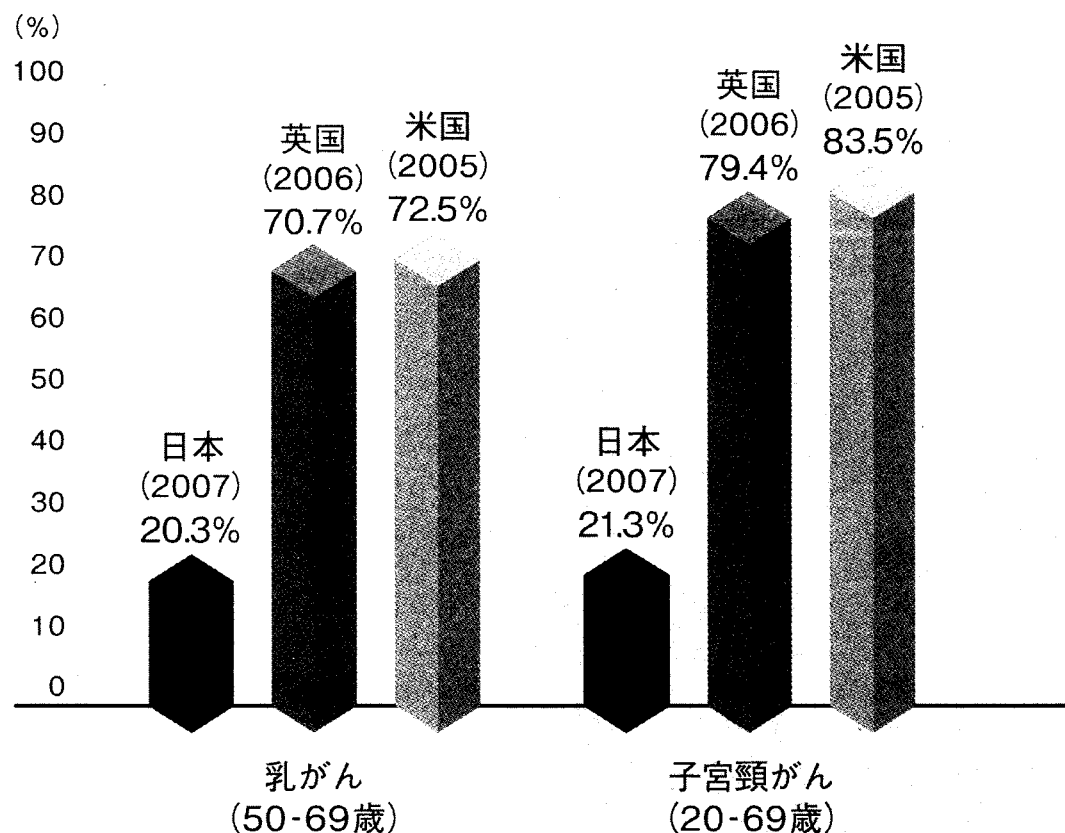
※ Wall Street Journal, January 11, 2007, Page A1



子宮頸^{けい}がん検診の場合、米国では84%の女性が受けているのに、日本では21%です。とくに、20歳代の女性で子宮頸がん検診を受けているのは11%という極めて低い状況です。

がん検診でも、「日本の常識＝世界の非常識」なのです。

[がん検診受診率の比較]



ぜひ、無料がん検診をお受けください。

「20代、30代でがんになるのは、少数派なのでは？」

3



し きゅうけい
子宮頸がんの原因は、ウイルス
かんせん
感染で、若い人に増えています。
ふつうのがんは、年齢とともに増
えますが、子宮頸がんのピークは
30歳代後半です。早期がんでは症
状は出ないので、検診が必要です。

子宮頸がんは、ウイルス（ヒトパピローマウイルス）感染が主因で、過去20年でみると、20～30代に急増しています。妊娠をきっかけに、子宮頸がんが発見されることもめずらしくありません。検診は、子宮の下部の細胞をこするだけの簡単なもので、痛みもすくなく、数分で終了します。乳がんも、女性ホルモンの影響を受けるため、一番多いのは、女性が一番いそがしい^{へいけい}閉経前の40歳代後半です。



ぜひ、無料がん検診をお受けください。